

姥屋敷地域

幸せづくり活動プラン

～みんなの笑顔の真ん中で子どもたちが笑う地域～



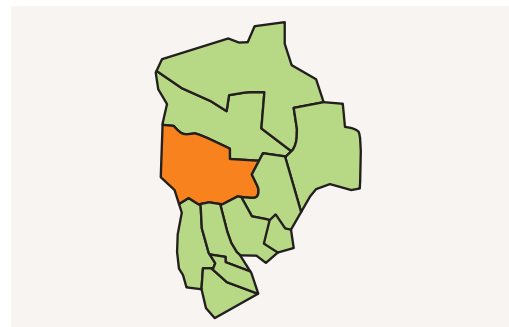
目指す!
地域の姿

健康をつくる白い牛乳、緑の野菜、
住むならばお山のふところ 姥屋敷

▶ 私たちの地域(地域の概要)

私たちの地域は、岩手山の麓に位置し、戦後に開拓入植され、酪農、高冷地野菜生産などの農業専用地域です。雄大な自然を背景に、鞍掛山、相の沢牧野、お山の湯などの地域資源もあり、来訪者も多い地域となっています。

人口の少ない地域ですが、子どもから高齢者まで「絆」を大切にしたい地域づくりを進めています。

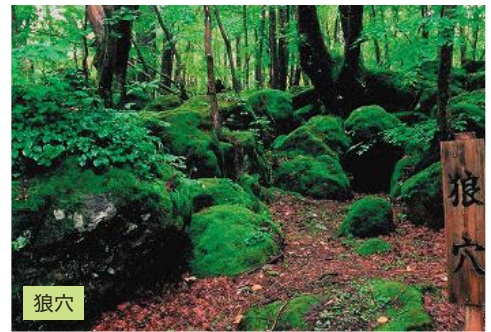


● 姥屋敷地域づくり懇談会(姥屋敷自治会)
【計画期間:平成27年度～平成34年度】

1

地域の宝物

私たちの地域には、自然・歴史・文化に育まれた伝統芸能・食文化・
景観・自然環境など、みんなで守り育て、次の世代に継承したい宝物
があります。



2

地域情報

私たちが暮らしている地域の人口・世帯数・年代別人口や産業別人口、地域の様々なサービス施設の情報を地域のみinnで共有し、私たちの幸せ地域づくり活動に活用しましょう。

姥屋敷地域の情報

	姥屋敷地域		滝沢市		摘要	
	人(世帯)	割合	人(世帯)	割合		
1 人口	318	0.6%	55,288		H30.12末	
2 世帯数	123	0.5%	22,372		H30.12末 (全市から自衛隊等を除く)	
高齢者世帯	40	32.5%	5,020	22.4%		
うち高齢者1人世帯	26	21.1%	2,483	11.1%		
3 産業別人口	181	0.7%	27,291		H27国勢調査	
1次産業	100	55.2%	1,399	5.1%		
2次産業	14	7.7%	6,100	22.4%		
3次産業	67	37.0%	19,792	72.5%		
4 年代別人口	318	0.6%	54,733		H30.12末 (全市から自衛隊等を除く)	
すこやか世代	0～5歳	17	5.3%	2,842		5.2%
学び・成長世代	6～17歳	28	8.8%	6,715		12.3%
自立世代	18～34歳	41	12.9%	9,235		16.9%
子育て世代	35～49歳	54	17.0%	11,610		21.2%
充実世代	50～64歳	63	19.8%	10,935		20.0%
円熟世代	65歳～	115	36.2%	13,332		24.4%

姥屋敷地域公共施設情報 ※印のあるところは指定避難所です。

施設名	住所	連絡先	施設名	住所	連絡先
※姥屋敷小中学校	鵜飼安達117-19	680-2401	たきざわ自然情報センター	鵜飼安達114-7	691-6555
姥屋敷保育所	鵜飼安達140	680-2622	相の沢牧野看視舎	鵜飼姥屋敷108	680-2411
花平酪農農業協同組合	鵜飼安達138-13	680-2211			

3

私たちの地域の課題

私たちが住み続けていくためには、生活環境を維持・向上を目指して、地域が主体となって地域の課題を解決するとともに、地域と行政が連携して取り組む必要があります。

地域整備の課題(地域と行政の連携、行政の検討課題)

重要度

- ① 市街地とのアクセス向上のため市道洞畑鬼越線の舗装整備が必要です。
- ② 地域づくりの中心として姥屋敷小中学校や姥屋敷保育所の存続が必要です。
- ③ 高齢化社会に対応した公共交通網の整備が望まれます。
- ④ 地域内に就労の場の創出が求められます。
- ⑤ 優れた自然景観を活用した観光振興方策が必要です。

地域活動の課題(地域で取り組む課題)

重要度

- ① 姥屋敷小中学校や姥屋敷保育所を中心としたコミュニティづくりが大切です。
- ② 地域内で安心して子育てできる環境を目指します。
- ③ 優れた自然景観を保全するため不法投棄防止対策が必要です。
- ④ 地域産品を広域での観光振興に取り組みます。

4 幸せづくり計画

①地域づくりの基本方針

私たちの地域の目指す姿を実現するために、住民・自治会・関係団体などと行政が連携・協働して、地域づくりを推進していきます。

基本方針 1

農業専業地域の特性を活かしながら地域の魅力を高め、若年層の定住を図ろう

- ▶ 1. 地域の農産加工品の地産地消に取り組みます。
- ▶ 2. 酪農業体験イベントを企画し地域ピーアールに取り組みます。
- ▶ 3. 地域内の協働で安心して子育てができる環境をつくります。
- ▶ 4. 地域で保育園、小中学校の運営に協力します。
- ▶ 5. 栄光賞で子供たちの健闘を称えます。

基本方針 2

岩手山麓の雄大な自然、優れた農業景観を活かし、観光客が気軽にゆったり過ごせる地域にしよう

- ▶ 1. 貴重な植生群落の保全に取り組みます。
- ▶ 2. 手作り看板など牧歌的な雰囲気づくりを大切にします。
- ▶ 3. 地域産品を活かした交流人口の増加を図ります。
- ▶ 4. 継続して水仙ロードに取り組みます。
- ▶ 5. 地域の集いの場として「まつり広場」の整備を進めます。

基本方針 3

通学、防災、観光面の交通アクセスと安全性が確保された地域を目指そう

- ▶ 1. 市道洞畑鬼越線の管理と拡幅事業に取り組みます。
- ▶ 2. スクールガードをはじめ地域で交通安全に取り組みます。
- ▶ 3. 交通安全の危険区域を地域で共有し交通安全意識の向上を図ります。
- ▶ 4. 自主防災組織を中心に地域の安全安心に取り組みます。

基本方針 4

地域の景観や生活環境を、次世代へ健全な状態で伝えていこう

- ▶ 1. 景観に配慮した地域を目指し景観形成住民協定を検討します。
- ▶ 2. 地域として不法投棄を絶対に許さないという意思を示します。
- ▶ 3. ゴミだしルールの周知徹底を図り、互に声を掛け適正なゴミ集積所の管理を心がけます。
- ▶ 4. 地域の歴史を後世に伝える活動に取り組みます。

4 幸せづくり計画

②地域の幸福環境要素と活動モデル

私たちの地域で幸せに暮らすために、各世代が幸福実感一覧表から象徴的要素・象徴指標を選択し、幸福を実感できる地域を実現するための活動モデルとそれを推進する活動団体・組織を明らかにします。

▶ すこやか世代(0～5歳)

- ① 幸福感を育む象徴的要素
(子どもに)良い食習慣が身に付いていること
- ② 象徴指標
家族一緒に食事をする回数(1週間)
- ③ 活動モデル
家族一緒に笑顔で食事をする

- ④ どのように具体的に取り組むか
今日のこと、明日のことを会話しながら食事をする
- ⑤ 活動団体・組織
各家庭 ほか



▶ 学び・成長世代(6～17歳)

- ① 幸福感を育む象徴的要素
地域の皆さんに(子どもが)見守られていること
- ② 象徴指標
子どもが安全に通学できると感じる人の割合
- ③ 活動モデル
地域の方々が資源回収などの子どもたちの活動に協力する

- ④ どのように具体的に取り組むか
学校・地域が一体となった行事(運動会、夏祭り、文化祭、卒業生をおくる会、資源回収)等に参加する
- ⑤ 活動団体・組織
小中学校、PTA、老人クラブ、青年会、自治会 ほか



▶ 自立世代(18～34歳)

- ① 幸福感を育む象徴的要素
地域の皆さんと交流の機会があること
- ② 象徴指標
地域のお祭りや行事に参加した回数
- ③ 活動モデル
地域のお祭りやサークルなどに参加する

- ④ どのように具体的に取り組むか
地区全体の行事(運動会、夏祭り、草刈清掃活動)に参加する
- ⑤ 活動団体・組織
各地区公民館、自治会ほか



▶ 子育て世代(35~49歳)

- ① 幸福感を育む象徴的要素
子どもたちの成長を確認できること
- ② 象徴指標
子どもとの会話の時間(1週間)
- ③ 活動モデル
小中学校の行事に積極的に参加する

- ④ どのように具体的に取り組むか
運動会、文化祭、卒業生を送る会等の学校行事に参加する。
- ⑤ 活動団体・組織
PTA、子ども会育成会、
地区スポーツ少年団、自治会 ほか



▶ 充実世代(50~64歳)

- ① 幸福感を育む象徴的要素
世代を越えて交流する機会があること
- ② 象徴指標
ここ1年で地域活動に参加した人の割合
- ③ 活動モデル
自治会活動など地域活動に参加する

- ④ どのように具体的に取り組むか
地区の運動会、夏祭りに家族みんなで参加する。
- ⑤ 活動団体・組織
自治会 ほか



▶ 円熟世代(65歳~)

- ① 幸福感を育む象徴的要素
いざという時にも、助け合える繋がりがあること
- ② 象徴指標
いざという時に、頼れる相手がいる人の割合
- ③ 活動モデル
地域の自主防災組織が行う防災訓練に参加する

- ④ どのように具体的に取り組むか
防災訓練に参加する。要援護者の把握に努める。
- ⑤ 活動団体・組織
自主防災組織、消防団、自治会 ほか



地域の幸福環境要素と活動モデル一覧表

ライフ ステージ	すこやか世代 (0～5歳)	学び成長世代 (6～17歳)	自立世代 (18～34歳)	子育て世代 (35～49歳)	充実世代 (50～64歳)	円熟世代 (65歳～)
幸福感を 育む 象徴的要素	(子どもに) 良い 食習慣が身に付 いていること	地域の皆さんに (子どもが) 見 守られていること	地域の皆さんと 交流の機会があ ること	子どもたちの成長 を確認できること	世代を越えて交 流する機会があ ること	いざという時に も、助け合える 繋がりがあること
Point						↘
象徴指標	家族一緒に食 事を <u>する回数</u> (1週間)	<u>子どもが安全に</u> <u>通学できると感</u> <u>じる人の割合</u>	<u>地域のお祭り</u> <u>や行事に参加</u> <u>した回数</u>	<u>子どもとの会話</u> <u>の時間(1週間)</u>	<u>ここ1年で地域</u> <u>活動に参加し</u> <u>た人の割合</u>	<u>いざという時</u> <u>に、頼れる相</u> <u>手がいる人の</u> <u>割合</u>
活動 モデル	家族一緒に笑顔 で食事をする	地域の方々が資 源回収などの子 どもたちの活動に協 力する	地域のお祭りや サークルなどに参 加する	小中学校の行事 に積極的に参加 する	自治会活動など 地域活動に参加 する	地域の自主防災 組織が行う防災 訓練に参加する
Point						↘
どのように 具体的に 取り組むか	今日のこと、明 日のことなどを 会話しなが ら食事をする。	<u>学校・地域が一</u> <u>体となった行事</u> (<u>運動会、夏</u> <u>祭り、文化祭、</u> <u>卒業生をおくる</u> <u>会、資源回収</u>) 等に参加する。	地区全体の行 事(運動会、夏 祭り、草刈清 掃活動)に参 加する。	運動会、文化 祭、卒業生を 送る会等の学 校行事に参加 する。	地区の運動会、 夏祭りに家族み んなで参加す る。	防災訓練に参 加する。要援 護者の把握に 努める。
活動団体 組織	各家庭 ほか	小中学校 PTA 老人クラブ 青年会 自治会 ほか	各地区公民館 自治会 ほか	PTA 子ども会育成会 地区スポーツ少年団 自治会 ほか	自治会 ほか	自主防災組織 消防団 自治会 ほか

5 私たちのあゆみ (活動記録)

私たちが「滝沢地域デザイン」をもとに2000年から地域の資源を活用し、地域の課題を解決するために、地域のみなさんとの連携・協働によって様々な地域づくりに取り組んできました。その活動記録を私たちのあゆみとしてまとめました。

時期	主要な活動の記録
2002年 (H14年)	・ 姥屋敷いきいき21推進委員会を設置
2003年 (H15年)	・ 姥屋敷マイロード事業 (滝沢浄水場から姥屋敷に抜ける道路、延長約1.5キロの拡幅工事、碎石舗装、側溝設置を～H18で延べ465人が参加し行われた。測量、立木の伐採、地権者交渉も委員会で実施)
2004年 (H16年)	・ 姥屋敷を山ぶどうの里にするぞ事業 (地域内で山ぶどう栽培)
2006年 (H18年)	・ 姥屋敷を山ぶどうの里にするぞ事業・収穫編 (栽培した山ぶどうをジュースにするための機器導入)
2007年 (H19年)	・ 姥屋敷を山ぶどうの里にするぞ事業・加工編 (特産品化向けスチーマーと王冠打栓機導入)
2008年 (H20年)	・ 防火用水整備事業 (自主防災体制強化のため防火用水を整備)
2011年 (H23年)	・ (財)自治総合センターが宝くじ普及広報事業として行っている「コミュニティ助成事業 (一般コミュニティ助成事業)」を導入しまつり広場に野外ステージテントを整備
2013年 (H25年)	・ お祭り広場整備事業 (まつり広場に休憩所を整備)
2014年 (H26年)	・ お祭り広場整備事業 (まつり広場舞台を整備し、小中学生と姥屋敷の一本桜を描く)

2016年（H28年）	・相の沢温泉「お山の湯」閉館
-------------	----------------

姥屋敷地域づくり懇談会

姥屋敷自治会役員、姥屋敷いきいき21まちづくり推進委員会、消防団第10分団、姥屋敷小中学校PTA、老人クラブ、子ども会育成会、地域内事業者、地域住民（順不同）